

で、ご協力宜しくお願い申し上げます。

佐藤文夫君 今井さん卓話ガンバッテ下さい。

佐藤弘志君 こまがた会員にさいそくされてボックスに協力。今井先生の最後の卓話は人生最後という事でしょうか。気になります。

馬場直次郎君 ボックスに協力して

山崎勲君

* (前年度スマイルBOX委員会) 6月のコメント賞は樋口会員です。(入院されておりましたが28日の例会前に奥様がお見えになりご本人のコメントを持っていらっしゃいました。元気になったので7月から出席したいとコメントを寄せて頂きました)

卓 話： 「最後の卓話」今井 克義会員

プログラム委員会から卓話の依頼を戴きましたありがとうございました。私の記憶が正しければ私が卓話をさせて頂いたのは7・8年前だったと思います。そこで今日お話しさせて頂いてこの次と考えたとき、年齢を考えると私自身どうなっているのかわかりませんおそらく卓話が出来た状態ではないと考え「最後の卓話」とさせて頂きました。

卓話に代えて

“我が子が10円玉を拾ったら交番に届けさせるべきか”

「お金を拾ったら交番に届けましょう」これが今回の問いに対する紛れもない模範解答だと思います。しかしながら、この答えが果たして現実的なのだろうかという気もします。

子供には交番に届けましょうと言いながら、親は拾った10円玉を交番に届けるでしょうか。おそらく、届けませんよね。その前に、落ちていた10円玉を拾わないと思うんです。警察に届けるということは頭ではわかっているけれど、それが現実と結びつきにくいわけです。ではいったいいくらであれば、拾ったお金を交番に届けることが現実的と言えるのでしょうか。500円？それとも1000円？1万円？もちろん正解はありません。金の価値観も人によって、さまざまです。道徳的に考えれば金額じゃないわけですが……。10円を拾ってきた子供に対して教えなければならないこと、伝えなければならないことは、とにかく、その10円はあなたのものではなく、人のものなんだということだとおもうのです。

最近、自分のものと他人のものの境界線が曖昧になっているような気がします。スーパーに行けば先着順で景品をプレゼントされたり町を歩けばティッシュを手渡される。本来、お金を出して買うべきものが簡単にタダで手に入る。お金を出して買ったものなのか、もらってきた物なのか。そういうことが気にならなくなってきていると思います。だからちょっとしたお金やものに対して鈍くなっている。

私が教えている幼児教室では、忘れ物を取りに来ないお母さんが増えています。子どもたちに「物をなくしたらどうするの」と聞くと「買ってもらう」と答える。「探す」という答えじゃないんです。親が、ものをなくすことがどういうことなのかを子供にきちんと話していないんですね。だか

ら、子供も必死で探そうとしない。

私は自転車や傘の盗難が多いということと、それとは無関係ではないような気がします。これぐらいだったら盗ってもいいだろう、盗られてもいいだろうと思う気持ちが、盗ったほうにも盗られたほうにもある。腹は立つけれど、盗られたほうにもそれほどショックがないのも問題です。ものをなくしたり、ものを盗ったりということが簡単になっているということは、そこから生じる痛みがお互いにわかっていないということなんです。

最近コンビニに行くと、レジの前に募金箱が必ず置いてあります。私の友人は小銭を拾ってきた子供に対して、それは人のお金であるということ、そして持ち主がわからないためにその人に返すことができないということ、人のものだから自分のものにはしてはいけないということを教え、それならば困っている人のために役立てましょうと、募金箱に入れるよう話しているそうです。10円を拾ってきた子どもに対する答えは、これがいちばん現実的だと思います。

10円をきっかけに、自分のものをなくしたときの気持ちを教えることができればいいのではないのでしょうか。

レクタス教育研究所理事長 正司昌子

1933年 兵庫県生まれ。ピアノ塾講師を経て、その経験を生かし、87年に幼児の学習教室「レクタス教育研究所」を開設。

雑誌「プレジデント」より

— 四つのテスト —

— 言行はこれに照らしてから —

- | | |
|------------|------------------|
| I 真実かどうか | III 好意と友情を深めるか |
| II みんなに公平か | IV みんなのためになるかどうか |

7月19日例会：識字率向上月間 外部卓話

7月26日例会：「あし沼」上映会